

以下の内容は微細な内容（強弱の不統一の修正。アクセントの不統一の修正。スタカートなどの不統一の修正）などはスコアで修正していて文章では書いていない。

音の間違いなどの内容の大きな部分だけに限定している。

1 曲め

- A の 7 オーボエ パート譜の A にナチュラルが落ちている。
- A の 13 小節目 ホルン 1,2 だが、スコアが間違いでレミ♭
- B の 3 小節目 2nd ホルン スコアの記譜は 1 回目のみレミ パート譜は 3 回ともレレ
パート譜が正しくスコアの記譜が間違い
- B の 10 小節目の形 2nd Altosax だが、この音型が 3 回登場するが、パート譜は全部ララである。スコアは 3 回ともララソ。他のパートの音から推測してパート譜が正しくスコアが間違い。
- B の 11 オーボエ 2nd パート譜はドシで、スコアはシシ。スコアが正しくパート譜が間違い。（パート譜の 2 回目 3 回目は正しい。）
- B の 12 小節スコアのパーカス 2 の tamb は誤表記（B の 8 の arco も誤表記）（2 回目の tamb も誤表記）
- B の 13 小節（とこの形の後にでてくる 2 回についても）
この形の打楽器のスコアやパート譜に「13 小節目に mf 記入。13 小節から 15 小節にかけて松葉の cresc が抜けている。」と思われる。ティンパニのパート譜は 1 回目と 2 回目にはそのように記入されている。シンバルのパートには mf 以外なにも記入がないが最後まで mf は不自然。E の 4 前、最後の 4 小節もスコアは未記入。
この部分「ティンパニの 1 回目 2 回目のパート譜の内容」に揃えた強弱を全打楽器パートに指示しても良いし、タンバリンなどはパート譜のままでも良いとも思われる。
ここでは PC のパート 1 2 4 5 については整理した強弱を記入している。
PC 3 のタンバリンは、指揮者の判断にまかせることとする。
- D の 6 小節前のユーホニウムがスコアでは D と B で div になっている。ト音記号のパート譜では下の音を消したような形跡があり、D 音だけになっており、へ音記号のパート譜では上の D 音だけである。スコアの記載が間違いと判断する。
- E の 9 クラ 1 s t スコアもパート譜も装飾音のソのシャープが抜けている。
- F 弦バス スコアに arco が抜けている。

2 曲目

- B の 2 小節まえコントラバス スコアの 2 拍目 F は間違いで G
- E の 8 小節目 フルートだけメロディのシに♭がついているが、他のパートや前後の流れから判断して、このフラットは間違いで H のままが正しいと判断する。したがってスコアもパート譜も間違いである。